

JUMP TO NEXT!!
ととせ
ももとせ
とこしへに

フェスティバル
国立大学2018

国立大学法人
奈良女子大学

記念館 一般公開

旧奈良女子
高等師範
学校本館
《重要文化財》

平成30年**10月30日(火)**～**11月5日(月)**
午前**9時**～午後**4時30分**(入館は午後**4時**まで)

入場無料
予約不要です

特別展示

創立百十周年記念事業

展示でたどる 奈良女子大学の歴史

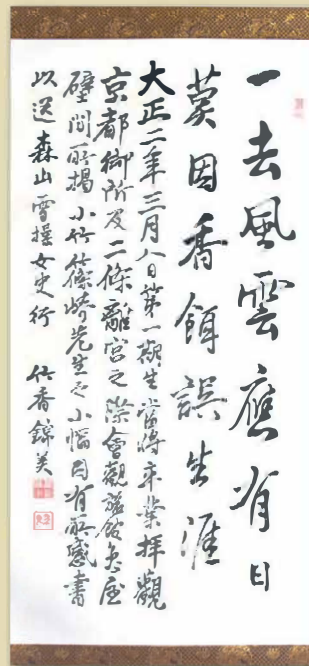
百年ピアノコンサート

演奏者：三品 拓人氏

11/1(木)、11/2(金)

各日 午前11時～午前11時30分

午後2時30分～午後3時



行書七言詩軸 (錦織竹香書)



虫籠 (佐保会所蔵、小倉遊亀作)

連絡先

奈良女子大学 総務・企画課
〒630-8506 奈良市北魚屋東町
TEL.0742-20-3220
FAX.0742-20-3205

交通

近鉄奈良駅①出口から徒歩約5分
JR奈良駅から市内循環バス
近鉄奈良駅下車徒歩約5分
※車での来場はご遠慮願います。

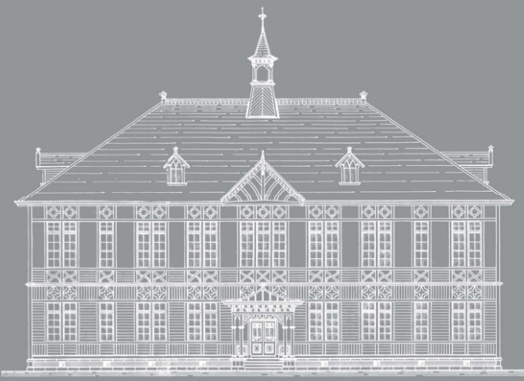


記念館ホームページ

<http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/faculty/kinenkan/index.html>



奈良女子大学 記念館について



奈良女子大学の前身である奈良女子高等師範学校は1908(明治41)年3月に設置され、翌年5月から授業を開始しました。校舎の工事は1908(明治41)年2月からはじまり、翌年10月には主要な建物が完成しました。現在、奈良女子大学記念館としている建物は、奈良女子高等師範学校本館としてこのとき建設されたものです。

設計は京都帝国大学建築部長で奈良出張所心得の山本治兵衛が行いました。

木造二階建てで、外観の大きな特徴は、北欧によく見られる木部を外に表す壁構造のハーフトィンバー形式をとっており、屋根には頂塔およびドーマー窓が設置されていることにあります。1階は中央に廊下が配され、これを挟む形で7室が設置されています。建物両端にある階段で2階に上ると、フロア全体が大きな講堂となっています。講堂内には柱は用いられず、中央部に二重に織り上げた天井には明かり取りの窓が配され、広々とした空間が広がります。

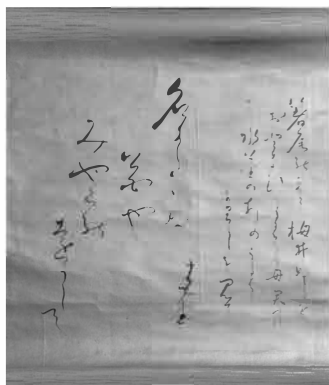
1994(平成6)年2月から6月にかけて改修工事が行われ、同年12月27日に正門および守衛室と併せて重要文化財に指定されました。その後も空調設備工事・外壁改修など、その時々適切な修理を行い、2014(平成26)年12月25日から2015(平成27)年12月にかけては、これまでにない長い時間をかけて大規模な耐震補強工事を実施しました。この工事に際しては、文化庁・奈良県の指導を受けて、歴史的建造物の文化的価値を損なうことのないよう、細心の注意を払い設計、施工がなされました。

旧本館は建設以来、改変された箇所はほとんどありません。現在も2階講堂内部には奈良女子高等師範学校開校当時から使用されていた長椅子がそのままに並び、開校時に購入した最も古い国産ピアノのひとつであるとされる「百年ピアノ」が置かれ、往事を偲ぶことができます。

特別展示

創立百十周年記念事業

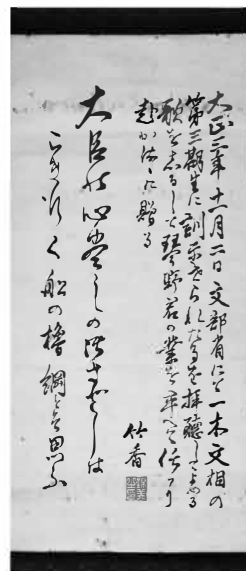
展示でたどる奈良女子大学の歴史



水木十五堂書



錦織竹香書



錦織竹香書



錦織竹香書

平成30年秋の記念館一般公開では創立百十周年記念事業の一環として、小倉遊亀と錦織竹香を中心に、本学にゆかりの深い人物による絵画・書(本学同窓会 佐保会所蔵)等の展示を通して本学の歴史をたどります。

奈良女子高等師範学校の教授兼舎監であった錦織竹香は、生涯を通じて女子教育に多大な功績を残しました。絵画や書に精通していた竹香の作品をご紹介します。小倉遊亀は1913年、奈良女子高等師範学校国語漢文科に入学。選択科目に図画を選び、奈良の神社仏閣で仏教美術に触れたことで芸術としての絵画に目覚めました。105歳で逝去するまで多数の作品を遺し、1998年、本学第一号となる名誉博士の称号を授与されています。なお、小倉遊亀作の作品については全て複製を展示します。

奈良女子大学記念館 館長 藤原素子

- 錦織竹香(1855~1945)
1909(明治42)年、奈良女子高等師範学校開校と共に教授兼舎監に就任。絵画や和歌に優れた。
- 小倉遊亀(1895~2000)
1917(大正6)年、奈良女子高等師範学校卒業、日本を代表する女性画家。